

第23回 介護・医療連携推進会議報告

平成29年10月23日 16時00分～

ケア・オフィス 優 (介護看護課)

<出席者>

上部入船町内会 会長	佐々木 茂 様
小樽市医療保険部 介護事業所担当主幹	佐藤 正樹 様
小樽市医療保険部 介護保険課主査	橋本 真紀子 様
南部地域包括支援センター	斉藤 尚史 様
中部地域包括支援センター	内藤 尚代 様
中部地域包括支援センター	神代 亜美 様
東南部地域包括支援センター	川尻 輝記 様
北西部地域包括支援センター	本間 潔 様
小樽市入船西地区 民生委員	小野 直子 様
ケア・オフィス 優 管理者	二丹田 早稲子
ケア・オフィス 優 介護福祉士	屋代 利恵子
ケア・オフィス 優 事務職員	齋藤 智世

～お知らせ～

※当法人の宣伝が、市役所のモニターで流れております。

都通のサロンを含め、15秒ですが絶賛放映中です！

利用者のご家族が見ていることが多いようで、介護保険課への問い合わせもあるとのことである。

1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 集計報告

① 7月、8月、9月の集計

- ・新患→1名、神経難病。独居のため、転倒のコールが多い状況。

近隣のご家族がネットカメラを設置して協力的

- ・終了者→1名 介護付き特定施設へ入所 心不全悪化により入退院を繰り返していたため、施設入所でなければ、在宅は不可との医師の判断

利用者数 10名

(10月にも新患2名あり、12名。受け入れ困難な状況)

ご家族の方も協力的な方が多く、遠方でもご家族がネットカメラの設置により確認し、何かあるようであればすぐ連絡を頂ける体制があり、当事業所との連絡も密にとれている現状である。

② 疾患の別

- ・脳梗塞後遺症
- ・変形性膝関節症
- ・脊髄小脳変性症
- ・視神経脊髄炎
- ・廃用症候群
- ・糖尿病
- ・アルツハイマー型認知症
- ・パーキンソン病
- ・脳血管性認知症
- ・慢性腎不全
- ・胆管癌

③ エリア

幸～桜町

2. 定期巡回サービス内容報告

- ① 排泄介助（パウチ便廃棄、バルーンバック尿廃棄、おむつ交換、ポータブルトイレ処理）
- ② 血糖計測とインスリンの声がけ、見守り
- ③ 軽微な傷の処置
- ④ 軟膏塗布（慢性湿疹）
- ⑤ 配膳、下膳、食事促しと見守り
- ⑥ 内服介助、確認
- ⑦ 起床、就寝介助
- ⑧ 買い物、調理、洗濯、掃除などの生活支援
- ⑨ 洗顔、清拭、洗髪、足浴、手浴、口腔ケア
- ⑩ 更衣、体位交換
- ⑪ 通院介助（自費）
- ⑫ 入浴介助

→ヘルパーの人員不足もあり、ヘルパー介助でも可である入浴介助も看護師が行っている現状。
デイサービスへの移行等、今後相談していきたいと考える。

3. 随時対応サービス内容報告

- ① 便秘、下痢、下剤量調整
- ② 転倒時の対応依頼
- ③ バルーンカテーテルからの尿漏れ→医療保険での看護師へ依頼
- ④ 急な処方変更

→薬剤師の介入を検討したいが、現在利用中の薬局を変更するにも不便が生じる可能性もあり、なかなか難しい状況である。

4. 随時訪問サービス内容報告

- ① パーキンソンの方の無動時の介助

5. 訪問看護緊急対応内容報告

- ① 内服セット
- ② 浣腸の実施
- ③ 転倒後の状態観察

6. 現状報告

- ・ヘルパー不足により、受け入れがこれ以上不可な状況

→募集をかけても応募がない状況。

訪問介護員の人材が市内全体的に不足していると考えられる。

- ・重度の方が増えており、訪問回数も多く希望
- ・看護職員数も変化はないが、入浴介助などが増えており、回数増加がある
- ・リハビリも利用者が増えている状況
- ・トータル的に、一人あたりの訪問が増加傾向にある

7. 問い合わせ状況

- ・10月新患2名の調整

(1名は既に開始。30日要介護5の方の受け入れ予定)

紹介は、包括1名→当社がケアマネも同時に依頼

(廃用。独居。ご家族によりネットカメラ設置)

1名→初めての居宅介護支援事業所からの紹介。

退院前カンファレンス終了(寝たきり、全介助で、食事介助、おむつ交換、体位交換、離床の希望あり。

入浴は訪問入浴利用予定も、単位数不足が予想され毎週は困難。配偶者も要介護。ご家族が介護予定も介護苦となる予想が高く、在宅が可能かと不安もある)

→ご両親の介護によりご家族への介護負担がかなり大きくなることが予想され、何とか訪問回数を増やして対応したいと考えてはいるが、どこまで訪問回数を増やし支援できるか懸念されるところである。

8. アザレアとの情報交換

- ・まだ、ヘルパー充足していないとのことで、外部へは出ていない。連携型?との情報?

同法人内ではあるが、連携型とのこと。

サービス付高齢者住宅の入居者の定期巡回サービスで現在、余剰がない状況のようである。

- ・訪問看護連絡協議会へ、ようやく入会の兆しがある。11月に小樽、後志の訪問看護ステーションにより、当社にて救急救命士との連携・ICTの活用に関する研修を企画。参加を呼び掛けている。

同事業者としての連携を図りたいと考えているが、なかなか進んでいない状況。

今後、当事業所で人員不足等により受け入れ困難な場合等、ご紹介できるような同事業者としての体制がとれると、サービスを必要とする方への支援がより拡充できると考える。

9. 役員の皆様からの助言など

サービス受け入れをしたくても、人員不足等やむを得ない事情ではお断りするしかない場合もある。

また、包括支援センターなど他職種の介入により、在宅生活に良い方向性を見出すことができるよう連携をとることが必要と考える。